

ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2018.4.6-4.18-4.20

かやのみ幼稚園

活動内容「幼稚園のタケノコを収穫し、美味しく食べ、描こう」

園長が幼稚園周辺に生えるモウソウタケのタケノコを春先より出ているか確認をしている。2018年は例年と比べて急に暖かい日が続いたため、タケノコが早く出ている。幼稚園庭の南側下り斜面において2本のタケノコと倉庫脇に1本あるのを4月5日に発見し、翌日、年長児31名とともに収穫しにいった。

① タケノコの発見

子どもにタケノコを探させる。スーパー等では真空パックの物が主流のため、タケノコ自体を見た経験がある子どもが少ない。タケとタケノコの関係や、地下茎によって繋がっていることも現地にて説明する。



② タケノコを掘る

道具：スコップ

タケノコを発見したら、砂場等からスコップを持ってきても交代しながらタケノコを掘っていく。紫色のブツブツが見えるまでタケノコ本体を傷つけないよう丁寧に掘っていく。



③ タケノコの収穫

子どもたちと共同で収穫したタケノコをしばらく子どもたちに触らせたり、持ち上げさせたり、タケノコの匂いや土の感触等も感じさせる。

天候が悪く、雨が降り始めたため、予定時間を早めて教室に帰った。後日、イノシシの被害を逃れたタケノコが雨後の筍といわれるようにたくさん収穫できた。

多年齢へ教材として園長が10本以上収穫した。



④ タケノコを調理し食べる。

4月20日の誕生日会では、例年幼稚園でカレーライスを作り園児と教諭と一緒に食事をしている。

年長児は手伝いとしてタケノコの皮を剥いた。

カレーの具材に幼稚園で採取したタケノコを入れて全員で食事をした。モウソウタケはタケノコの中でも高級な部類であり、食感も良く、残さず全員が美味しくいただいた。



⑤ タケノコを描く

タケノコを採取した経験と皮を剥いた経験を絵画にした。特徴として皮が幾重にも重なっているところや、芽が出ている箇所、そして根の部分等、タケノコ本来の特徴がわかりやすく描かれている。かやのみ幼稚園でのタケノコの絵画の特徴がよく出ている。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2019.3.22

かやのみ幼稚園

活動内容「水晶山へ水晶をとりにいく」

① 経緯

水晶山は幼稚園の敷地内ではあるが、山道を200メートル程歩くため片道15分程の時間がかかる場所にある。50年以上前から水晶が出ていたため、近隣の住人には昔から遊びの一環として親しまれた場所であったが、16年前までは木々に覆われ、近づく者もなく忘れられた山であった。15年前、山道をかき分けて園長と当時の預り保育年長児10名程が、水晶山へ行くルートを整備し、数十年ぶりに水晶山を発見、掘ってみると何個かの天然水晶を採取できた。この経験から、園児が水晶山へ行くのが遊びの一環となり、とても人気となった。

しかし、道中は斜面や草の生い茂る場所もあり、また貴重な天然水晶の保護等から、年に数回程度しか行くことを許可していないため、水晶山へ行くこと自体が稀な経験であり、卒園するまでに2回程度しか経験できない貴重な授業の1つである。

② 水晶山へ行く

園児に水晶が何かというのを説明するのはとても難しい。透明な石、ガラスではない、六角形等の特徴はあるが、実際に採取して水晶がこういう特徴の物であるという知識を得る方が手っ取り早い。3月22日、年長児全員35名と教諭2名ともに水晶山へでかけた。手スコップを1個だけ持って行かせる。2～3月頃が道中に草木が少なく毒蛇やハチ等の心配が少なく、また枝に葉が少なく見通しがきくこと等から、この時期に行くことが多い。一番遅い子どもの歩調にあわせて進んでいく。



③ 水晶山で水晶を採取する。

水晶山へ着くと、まず子どもたちの人数確認と健康を確認。周囲の安全を確認したら、水晶山の色々な場所を視覚で確認させる。キラリと光るものが天然水晶の可能性はある。ひとつずつ手に取り、汚れ等を落としたり拭いたりして確認していく。

表面になればスコップを使って少し掘ってみる。スコップを使う経験にもなる。スコップの材質や形状により掘りやすい事も発見する。



④ 水晶の確認

水晶は正式には石英という鉱物のひとつである。長い月日をかけてできる天然のガラスのようなものである。無色透明なものから、少し紫色の入った紫水晶や、黒水晶、黄水晶等、様々なタイプの水晶が取れる。どれが水晶なのか最初は理解できずに採取している子どもも、1人天然水晶を採取したら、それを見せてやると何が水晶なのかをすぐに理解できるようになる。中には普通の石や、白く濁った価値の低い水晶を見つける場合もあるが、だんだんと透き通る輝く水晶を見つけることができるようになると、とても楽しくなるのか、集中して探すようになる。しかし、資源保護の観点から30分程で終了させる。



運がよければ鉛筆大の六角で透明な水晶が発見できる。



集中力の高い子どもは一心に探すのでたくさん発見できる。

ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2019.3.22

かやのみ幼稚園

活動内容「裏山の頂上たんけんに行く」

① 経緯

幼稚園の裏山は幼稚園の敷地内にある。高さも100メートル以下であり、子どもたちが登るのに適度な山ではあるが、15年程前までは倒木等により山頂までは登ることができなかった。15年前に園長が山道を子どもたちと切り開き、急斜面にはロープを張り、子どもたちでも登れるように整備した、それから毎年、子どもたちは山頂まで登っている。頂上には少し開けた場所があり、南北尾根づたいに山道がある。地域の方が昔から崇拝している石仏周辺の広場があり、そこへ探検に行く。幼稚園から20分程で到達できるが、木の枝や根により、小さな怪我をする子どももいる。

見晴らしがとても良い。道中ナツハゼが生い茂り、秋には捕食できる。

② 卒園を目前に、要望があったため年長児31名とその保護者を裏山探検へ招待した。子どもたちは慣れた道を進むため、早く到達できたが、保護者は子どもたち以上に大変そうであった。足腰腕力、握力が卒園を迎え、十分に宿っていることを認識できた。



③ 頂上から今度は北へ進むと自然岩が重なり、偶然にアンパンマンのような形を形成したアンパンマンの岩がある。子どもが命名した岩であるが、大人が見てもアンパンマンには見えない。子どもたちのファンタジー世界観により探検は一層楽しいものであることがわかる。

カメラを向けると顔認証をするのが不思議。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2018.8.29

かやのみ幼稚園

活動内容「ながしそうめん」

① 経緯

幼稚園では休日の預り保育を実施している。保護者の就労条件を問わない夏期保育には、全園児の6割程が参加している。夏期保育最終日にはお楽しみ会を催す。中でもながしそうめんは大人気であり、ここ10年程はこのながしそうめんを目当てに夏期保育に参加する子どももいる程である。

② 竹の加工

流しそうめんに使う竹は幼稚園周辺に生えている竹を使用する。この竹はモウソウタケであり、太くて荒いのが特徴である。6月下旬に伐採し、枝は七夕飾りに利用する。子どもたちは年齢に応じた七夕飾りをつけて持ち帰っている。その時に利用できないモウソウタケの下半分を残しておき、軒下で地面に触れさせないように保管し、8月下旬より園長が2日間かけて加工した竹にそうめんや、幼稚園でつくったミニトマト等を流して食べる。

左右の利き手により取る場所の工夫が見られる。弁当では静止している物を掴むが、動く物を掴む体験になっている。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2018.4月～11月
かやのみ幼稚園

活動内容「幼稚園周辺の生物・昆虫を捕獲して観察しよう」

幼稚園の園庭や周辺は森に囲まれているため、様々な生物が生息している。カエルやバツタ、クワガタ、カブトムシ、ダンゴムシといった生物を直に観察し、または触ったり何を捕食するのかを辞典等で調べ、知識と経験に生かしている。

① タマムシの発見と捕獲

タマムシ色という色もありも光により変化する光色の昆虫で、とても珍しく数年ぶりに幼稚園で捕獲した。子どもたち全員で観察した。



② オニヤンマの捕獲

幼稚園には様々なトンボが飛んでくる。アキアカネやシオカラトンボ、イトトンボ等、多種にわたる。中でもオニヤンマは大きく、教室等に入ってくるので捕獲は簡単である。毎年捕獲している。観察した後で自然に帰した。



③ クワガタの捕獲・観察

クワガタは、幼稚園周辺に生えているクヌギを蹴ると落ちてくる。コクワ、ノコギリクワガタが落ちてくるが、園長が山に入りミヤマクワガタを捕獲してくると、子どもたちはとても喜んで観察し、クワガタ同士を戦わせて遊ぶこともある。



④ カマキリやバッタの捕獲・観察・絵画指導

カマキリやカエル、バッタは生息する場所によって様々な色に変化する。捕獲場所によって緑色のものから茶色のものから、大きさも種類や雄雌、時期等で様々であり、子どもたちはとても不思議だと感じる。絵画にもその気づきが描かれている。



⑤ その他の生物

幼稚園周辺にいる様々な生物を珍しいと感じたらすぐに捕獲して観察するようにしている。

オオナメクジ
体長 15 cm程



左アカガエル
右アオガエル



子どもがお猿さんがいたというので見に行くと。。

アゲハやオオムラサキも飛んできます。



ひろしま自然保育認証制度活動報告書

2018.3.31

かやのみ幼稚園

活動内容「幼稚園の四季」

① 経緯

幼稚園の周辺にはたくさんの草花が生い茂る。また園庭の周りにも常に子どもたちが四季の移ろいを感じられるように、園庭を取り囲むように樹木の配置を考えながら植樹している。ロウバイ→サクランボ→スイセン→ヒガンバナ→ユスラウメ→ウメ→モクレン→サクラ→モモ→ツツジ→チューリップ→ハナミズキ→フジ→アカシヤ→ヒマワリ→コスモス→キンモクセイ→ギンモクセイ→サザンカ→ツバキ等々。花によるパトシリレーを目、鼻、指。五感で感じることができます。

② 花びらをすりつぶして色あそびをしたり、たんぽぽの実を飛ばしてあそんだり、カラスエンドウの豆笛やオナモミを服に付けて遊び、その時期ならではの遊びを体験しています。



タンポポわたぼうしを飛ばします。

宇宙服開発に貢献したオナモミです。幼稚園では種をもらいうけたたくさん育てています。

右アケビの実
左アケビの花
きれいな花ですが普通は高所のため観るのが難しいです。





卒園生が毎年記念樹を植えます。サクラがたくさん増え、花見をしながらお弁当を食べます。



万田酵素さんの「ひまわりの背比べ」に毎年参加しています。数年前にモミジを20本植え、秋は真っ赤に染まります。



富有柿は神辺で1番の古木といわれています。豊作の年には3百個以上の甘いカキが実ります。収穫して食べます。



スダチ、ユズ、ハッサクが実ります。酸っぱいですが、食べられます。